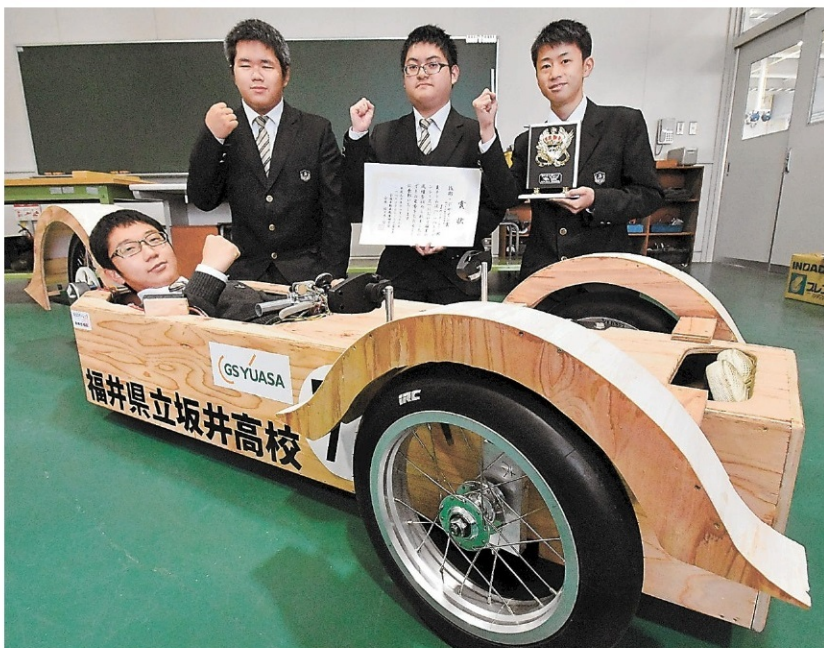


全国高校生 自作電気自動車レース

坂井が技術・デザイン賞



全国の高校生が自作の電気自動車ですピードやデザインを競う「2018エコデンレース」がこのほど、大阪府吹田市で開かれ、坂井市の坂井高が特別賞の「技術・デザイン賞」を受賞した。念願の受賞に、メンバーは「みんなで何度も話し合っ作り上げた車体。本当にうれしい」と喜んでる。(黒田美紗)

レースは全国自動車教育研究会(東京)が主催。今年82チームがエントリーし、本県からは同校と福井市の科学技術高が参戦した。12歳のミニバイク用バッテリーを使い、40分間で327・6kmのコースをどれだけ走行できるかを競った。

坂井高のチームは機械・自動車科自動車コース3年の北川竣也さん、北野翔聖さん、上末拓未さん、田中一生さんの4人。レースへの参加は、卒業制作の位置づけとなる「課題研究」の授業で取り組み、4月から設計や製作に励んできた。

製作した「Initial(イニシャル) K」は、全長約240cm、高さ55cm、重さ25kg。昔のF1カーをモチーフにした木製のデザイン

「2018エコデンレース」で特別賞を受賞した坂井高チームのメンバー。坂井市の坂井高

木製車体 曲線こだわり

ンで、昨年もレースに参加した北川さんが提案。「他県には木製が少なく技術・デザイン賞を狙える」と、あえて加工の難しい木を選択した。

前後をとがった形にしてクラシックカー風に。タイヤを覆うフェンダーは、熱を加えて曲げられる鉄と違い、曲線を出すのに苦労したという。木の質感が残るよう透明塗料を使うなど、こだわり抜いた車体に仕上げた。

福井国体や文化祭などで製作時間が限られていたこともあり、上末さんは「念願だった。苦労が報われた」と喜んだ。田中さんは、大会当日は体調不良で現地には行けなかったが、受賞の知らせを聞き「思わず声を上げてしまった」と笑った。

レースは30位で完走も果たした。北野さんは「自分たちの車体は重かった。来年は軽量化して上位を狙ってほしい」と後輩へ期待する。4人の指導に当たった実習教諭の松村隆広さんは「忙しい中でよくやってくれた」と健闘をたたえた。